

平成28年度の取組みからみえる課題について

(1) 総合相談支援事業

地域の高齢者及びその家族、地域住民からの様々な相談（介護、福祉、保健、医療等）に関する相談に応じ、適切なサービス利用や機関・制度へつなぎ、継続的に支援する。

目標の達成度合
A・・・90%以上
B・・・70%以上
C・・・50%以上
D・・・50%未満

①総合相談業務

	事業計画	取組み及び成果			H28 評価 (案)	H27 評価結果															
		26年度	27年度	28年度																	
全域		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数 (件)</td> <td>5,796</td> <td>6,217</td> <td>7,762</td> </tr> <tr> <td>高齢者人口 (人)</td> <td>33,316</td> <td>35,029</td> <td>35,926</td> </tr> <tr> <td>相談件数 / 高齢者人口</td> <td>17%</td> <td>18%</td> <td>22%</td> </tr> </tbody> </table>		26年度	27年度	28年度	相談件数 (件)	5,796	6,217	7,762	高齢者人口 (人)	33,316	35,029	35,926	相談件数 / 高齢者人口	17%	18%	22%			
	26年度	27年度	28年度																		
相談件数 (件)	5,796	6,217	7,762																		
高齢者人口 (人)	33,316	35,029	35,926																		
相談件数 / 高齢者人口	17%	18%	22%																		
		<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月の介護展において、包括の周知を行った。 																			
小牧	<ul style="list-style-type: none"> ・社協だより“小牧地域包括支援センターふれあいだより”を掲載し、相談機関であることや介護予防等に関する啓発を行う (年4回)。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数 (件)</td> <td>3,047</td> <td>2,894</td> <td>3,267</td> </tr> <tr> <td>高齢者人口 (人)</td> <td>12,968</td> <td>13,405</td> <td>13,679</td> </tr> <tr> <td>相談件数 / 高齢者人口</td> <td>23%</td> <td>22%</td> <td>24%</td> </tr> </tbody> </table>		26年度	27年度	28年度	相談件数 (件)	3,047	2,894	3,267	高齢者人口 (人)	12,968	13,405	13,679	相談件数 / 高齢者人口	23%	22%	24%	<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協だよりの中で小牧包括の活動内容の周知や、認知症予防・介護予防リーダーの案内を行った。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の方法が、回覧版ではなく社協だよりであることから、いざという時に、自宅で保存できるものとして掲載できたことで、必要時に活用しやすくなったと考える。 	B 定期的な独自の刊行物で全市的に包括をPRすることができており、相談件数の増加に繋がっていると考えられる。	B
	26年度	27年度	28年度																		
相談件数 (件)	3,047	2,894	3,267																		
高齢者人口 (人)	12,968	13,405	13,679																		
相談件数 / 高齢者人口	23%	22%	24%																		
味噌	<ul style="list-style-type: none"> ・住民に身近な場所で気軽に相談ができる機会を提供するため、老人福祉センター野口の郷において介護相談コーナーを月1回開催する。 ・地域での出前講座、市のイベントの機会に、地域包括支援センターのPRを行う。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数 (件)</td> <td>1,613</td> <td>1,394</td> <td>2,593</td> </tr> <tr> <td>高齢者人口 (人)</td> <td>7,749</td> <td>8,160</td> <td>8,255</td> </tr> <tr> <td>相談件数 / 高齢者人口</td> <td>21%</td> <td>17%</td> <td>31%</td> </tr> </tbody> </table>		26年度	27年度	28年度	相談件数 (件)	1,613	1,394	2,593	高齢者人口 (人)	7,749	8,160	8,255	相談件数 / 高齢者人口	21%	17%	31%	<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野口の郷において毎月相談コーナー開催 (相談者数33名)。 ・サロン等での予防講話を行ったり、サロン参加時や各会議や集まりの際に、地域包括支援センターのPRを行う。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大垣共立銀行で実施した認知症サポーター養成講座がきっかけとなり、相談ブースを提供していただくことができ、12月から年金支給日に相談会の開催につながった。 	A 老人福祉センターだけでなく、地域の企業と連携し、より身近な場所での啓発活動に努めており、相談件数も増加している。	B
	26年度	27年度	28年度																		
相談件数 (件)	1,613	1,394	2,593																		
高齢者人口 (人)	7,749	8,160	8,255																		
相談件数 / 高齢者人口	21%	17%	31%																		
篠岡	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者がアクセスしにくいセンターの立地条件をカバーし、また相談先としての認知度を高めるため、独居高齢者などを中心に積極的にアウトリーチを実践する。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数 (件)</td> <td>485</td> <td>688</td> <td>617</td> </tr> <tr> <td>高齢者人口 (人)</td> <td>7,641</td> <td>8,292</td> <td>8,701</td> </tr> <tr> <td>相談件数 / 高齢者人口</td> <td>6%</td> <td>8%</td> <td>7%</td> </tr> </tbody> </table>		26年度	27年度	28年度	相談件数 (件)	485	688	617	高齢者人口 (人)	7,641	8,292	8,701	相談件数 / 高齢者人口	6%	8%	7%	<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野口の郷での出張相談 (月1回実施) のほか、積極的にサロン等へ出向き、相談窓口としてPRを行った。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の地区 (周辺) を対象に挨拶やPRを兼ねて訪問したところ、顔が繋がりがり担当者あてに連絡が入るようになった。 	B 相談件数は減っているものの、立地条件をカバーするため、積極的に外へ出向き、相談窓口としてPRの努力をしている。	B
	26年度	27年度	28年度																		
相談件数 (件)	485	688	617																		
高齢者人口 (人)	7,641	8,292	8,701																		
相談件数 / 高齢者人口	6%	8%	7%																		
北里	<ul style="list-style-type: none"> ・住民に身近な場所で気軽に相談ができる機会を提供するため、老人福祉センター小針の郷において介護相談コーナーを月1回開催する。 ・北里地域包括支援センターたよりや、イベントの機会に、地域包括支援センターのPRを行う。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数 (件)</td> <td>651</td> <td>1,241</td> <td>1,285</td> </tr> <tr> <td>高齢者人口 (人)</td> <td>4,958</td> <td>5,172</td> <td>5,291</td> </tr> <tr> <td>相談件数 / 高齢者人口</td> <td>13%</td> <td>24%</td> <td>24%</td> </tr> </tbody> </table>		26年度	27年度	28年度	相談件数 (件)	651	1,241	1,285	高齢者人口 (人)	4,958	5,172	5,291	相談件数 / 高齢者人口	13%	24%	24%	<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小針の郷での相談会を11回実施し、延べ59名の方の相談があった。 ・北里地域包括支援センターだよりを年4回発行した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小針の郷での相談会は、定着してきている。 ・北里地域包括支援センターだよりを見て、講座への参加や相談に繋がっている。 	B 独自の刊行物により、包括をPRし、地域での相談会を通して啓発活動に努めている。	B
	26年度	27年度	28年度																		
相談件数 (件)	651	1,241	1,285																		
高齢者人口 (人)	4,958	5,172	5,291																		
相談件数 / 高齢者人口	13%	24%	24%																		

各地域包括支援センターの課題のまとめ

課題	
小牧	・効果測定を行うことを活動計画の内容に並行して盛り込まなければならない。福祉に関心のある人は、社協だより全体を把握されるが、なかなか目を通す人を急に増やすことは難しい。何を見て、包括や包括の主催活動に来館されたかを確認し、より効果的な啓発方法を検討する必要がある。
味噌	・大垣共立銀行での相談会は、知名度や相談ブース等の問題から相談者数は0である。今後銀行とも相談を行い、相談会の啓発や工夫を行っていく必要がある。 ・地域包括の認識は少しずつ持ってもらっているように感じるが、地域との関わりが薄い方や介護に無関心（必要のない）な方にはまだまだ認識としては薄いように感じるため、こちらからの発信を行う必要がある。
篠岡	・関係づくりのための効果はあったが、各地区への地域包括支援センター職員の貼り付けは困難である。対象者の絞り込みが必要。
北里	・小針の郷での相談数が少ない為、相談のしやすい工夫が必要である。 ・他に相談会等を開催していないので、出張相談の機会を他の場所でも実施できるように、取り組む。

②実態把握・ネットワーク構築

	事業計画	取組み及び成果	H28 評価（案）	H27 評価結果
小牧	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員・児童委員連絡協議会やボランティアが集まる会合にて、平成27年度に開催した南部、中部、西部の地域支えあい会議の内容を報告し、その報告をきっかけに、民生委員等の地区の関係者から高齢者に関する相談が入りやすい関係づくりを行う。 高齢者に関わるさまざまな機関を対象に、地域包括支援センターの機能を理解していただく機会を設け、高齢者の異変に早期に対応できるようにする。 	<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 南部、中部、西部の地区民協に出席し、信頼関係の構築に努めた。 地区の健康展への参加や、希望があったサロンへ出向き出前講座を行った。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民協は、各圏域全てに定期的に参加することはできなかったが、連携が図りやすい関係づくりができた。また、集まる機会の中で話題に上がった事例について、早期に訪問することにより適切な支援に繋がった。 集まる場に包括が参加することで、ご自分の地区以外の出来事を聞く機会として、様々な対応方法があること等を知っていただいた。 地域に出向くことで情報が得やすい関係づくりができた。 	<p>B 地域に踏込んだ活動により、地域住民と関係を築き、迅速な対応に繋がることができている。</p>	B
味噌	<ul style="list-style-type: none"> 区長会、民生委員・児童委員連絡協議会、ふれあい・いきいきサロンなどの機会を捉え、顔の見える関係づくりを行う。 	<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区民協に6回参加。 サロン13カ所に計43回参加。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区民協には、H27年度より参加させていただいているが、民生委員の個別訪問の工夫や心配ごと等を把握し、一緒に考える機会を持つことができている。 サロンでは、参加者より直接相談に行くまでではないが、少し気になるなど、些細なことでも相談して良いものかなど雑談の中で、地域包括支援センターが「身近な相談窓口」としてのPRに繋がっている。また、予防講話や健康体操の内容についても相談しやすくなっている。 	<p>B 地域に踏込んだ活動により、地域住民と信頼関係を築くことができている。</p>	B
篠岡	<ul style="list-style-type: none"> 生活実態の見えにくい集合住宅に対して、サロンを利用して定期的に参加者と接点を持つことで、個別の情報からいち早く困り事にアプローチする。 民生委員・児童委員連絡協議会後の勉強会を継続することによって、さらに関係強化を図り、実際の個別支援について連絡を取り合えるよう働きかける。 	<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員・児童委員連絡協議会後に勉強会を6回実施した（毎回約40名が参加）。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> サロン利用者から、閉じこもり傾向である住民の情報提供を受けて個別訪問することができた。 民生委員からの同行訪問の依頼があり実施できた。 既存の勉強会参加者同士（民生・ボラ）が活動を開始するに至った。 	<p>A 地域に踏込んだ活動により、地域住民と信頼関係を築くことができ、迅速な対応に繋がっている。</p>	A
北里	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員・児童委員連絡協議会、ふれあい・いきいきサロンなどの機会を捉え、顔の見える関係づくりを行う。 	<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員・児童委員連絡協議会にて勉強会や、地域包括支援センターとの連携について意見交換会を年2回開催。 ふれあい・いきいきサロンは、定期的に参加するとともに、介護予防、認知症予防の講座を開催した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 勉強会を通して、顔の見える関係づくりができ、情報交換を行うことができた。また、今後も継続してほしいというお声をいただくことができた。 	<p>B 地域の活動にも参加をし、顔の見える関係を構築することができている。</p>	B

各地域包括支援センターの課題のまとめ

課題	
小牧	<ul style="list-style-type: none">・ 今後は、各圏域で毎月行われる民協に包括が毎回出席することで、関係作りを重ねていきたい。・ 介護保険事業所等については、あまり出向くことができず、関係作りが及ばなかった。包括から各事業所に足を運ぶよう、もしくは各事業所と集える機会が設けられるよう、努力していきたい。
味岡	<ul style="list-style-type: none">・ 地域特性や実状を把握するために、引き続き顔のみえる関係を作っていく必要がある。・ 約半数の民生委員が変わり、新たな地域特性を知ることができるが、任期を終えた方の役割・活躍の場に繋がっていない。・ 民生委員としてどこまで個人に関わるのか不安に思っている方が多い。その為、個々に繋がりながら地域に関心を持ち、一緒に考えていく事が必要である。
篠岡	<ul style="list-style-type: none">・ 各民生委員により連携の意識に差があり、協力要請に工夫が必要である。・ 勉強会への新規の参加者が少ない。
北里	<ul style="list-style-type: none">・ 地域の方にとっては、個人や家族の問題であり、地域課題としてとらえていくことが難しい。連携を取りネットワークの構築と理解を広げていくことが必要。

課題に対する今後の方向性

各包括の様々な周知により、相談件数は増加しているが、平成 28 年度に実施した高齢者保健福祉計画策定に係る調査では、包括の認知度はまだまだ低い。より身近な場所での相談会の開催など、より効果的な方法について検討するとともに、適切な支援に繋がったかどうか検証する必要があると考える。

ネットワーク構築については、地域のキーパーソンとなる民生委員、区の役員との信頼関係は、年々厚いものとなってきているものの、民生委員・児童委員の改選に伴う交代等もあるため、継続的な関係づくりが必要である。

(2) 権利擁護事業

高齢者が、地域において安心して尊厳のある生活ができるように、専門性にに基づき高齢者虐待の防止や消費生活被害等権利擁護に関する相談や支援を行う。
また、財産の管理や日常生活上の契約などに対して、不安を抱えている方へ、必要に応じて成年後見制度の活用に向けた支援をする。

目標の達成度合
A・・90%以上
B・・70%以上
C・・50%以上
D・・50%未満

①高齢者虐待への対応・消費者被害への対応

	事業計画	取組み及び成果	H28 評価 (案)	H27 評価結果												
全域		【取組み】 ・11月の寿学園において、権利擁護業務の担当者が中心となって高齢者虐待防止についての寸劇を交えながら啓発を行った。														
小牧	・被害に遭われた方の特性を確認し、区長や民生委員等の地区関係者へ“留意していただきたい対象者像”を周知して、被害に遭わないための啓発を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>虐待相談件数 (件)</td> <td>44</td> <td>34</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>消費者被害相談件数 (件)</td> <td>2</td> <td>14</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> 【取組み】 ・地域支えあい会議を通して、警察の方から消費者被害の傾向や対策を直接お聞きする機会を設け、啓発活動を行った。 【成果】 ・今年度、虐待ケースとして挙がっていたケースについては、全てのケースについて大方終結を迎えることができた。経過観察から、変化が生じた時には、再度迅速に対応していきたい。 ・地域支えあい会議でお聞きしたことを、各地区や担当部署に持ち帰り、啓発につなげることができた。		26年度	27年度	28年度	虐待相談件数 (件)	44	34	44	消費者被害相談件数 (件)	2	14	4	B 相談があった案件について、適切に対応することができている。	B
	26年度	27年度	28年度													
虐待相談件数 (件)	44	34	44													
消費者被害相談件数 (件)	2	14	4													
味噌	・市民向けの講演会や講話・勉強会を通して、虐待防止や消費者被害防止等のための啓発活動を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>虐待相談件数 (件)</td> <td>15</td> <td>33</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>消費者被害相談件数 (件)</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> 【取組み】 ・寿学園において、市民向けに虐待防止講話を1回開催。 ※市内包括合同開催。 ・施設職員向けに虐待防止勉強会を8回開催(参加者数計78名)。市民向けとは視点は違うが、「当事者になるかもしれない」という意識付けができるような内容で実施。 ・市民向けに消費者被害防止講話を1回開催(参加者数計23名)。 ・野口の郷において、消費者被害防止予防講話を1回開催(参加者数計19名)。 【成果】 ・消費者被害については、当事者意識がないと興味を持っていただきにくい内容となっているため、一部分でも参加型で講話を行うことで意識付けのきっかけができた。		26年度	27年度	28年度	虐待相談件数 (件)	15	33	97	消費者被害相談件数 (件)	2	2	0	B 独自に講座を開催し、権利擁護事業を啓発できている。虐待の相談件数が増えている中、適切な対応ができていく。	B
	26年度	27年度	28年度													
虐待相談件数 (件)	15	33	97													
消費者被害相談件数 (件)	2	2	0													
篠岡	・地域のケアマネ、サービス事業所を対象に高齢者虐待についての勉強会を実施する。 ・圏域の住民対象にチラシ配布による詐欺被害防止のための啓発活動を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>虐待相談件数 (件)</td> <td>108</td> <td>21</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>消費者被害相談件数 (件)</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> 【取組み】 ・虐待の防止に関する取組みとして、居宅ケアマネ対象に「躊躇なく通報できる関係をつくる」目的で事例検討会を実施した。 【成果】 ・グループワークを通じて共感、理解を得ることができたと考えている。		26年度	27年度	28年度	虐待相談件数 (件)	108	21	8	消費者被害相談件数 (件)	0	2	1	B 地域住民だけでなく、居宅のケアマネに対しても勉強会を行い、虐待防止の啓発に努めている。	B
	26年度	27年度	28年度													
虐待相談件数 (件)	108	21	8													
消費者被害相談件数 (件)	0	2	1													
北里	・市民向けに講演会を行い、虐待防止や消費者被害防止又は成年後見制度利用のための啓発活動を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>虐待相談件数 (件)</td> <td>3</td> <td>19</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>消費者被害相談件数 (件)</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> 【取組み】 ・11月の寿学園で、権利擁護部会のメンバーが中心となり、高齢者虐待防止についての寸劇を行い啓発につなげた。 ※市内地域包括支援センター合同。 ・消費者被害防止、成年後見制度について、包括だよりや老人会にて啓発を図った。		26年度	27年度	28年度	虐待相談件数 (件)	3	19	42	消費者被害相談件数 (件)	2	1	2	B 消費者被害防止、成年後見制度については、独自の定期刊行を活用し、啓発に努めている。	B
	26年度	27年度	28年度													
虐待相談件数 (件)	3	19	42													
消費者被害相談件数 (件)	2	1	2													

各地域包括支援センターの課題のまとめ

課題	
小牧	・実践的な啓発を行った方が、より発見の機会を増やし被害を未然に防ぐことができるのではないかと考える。被害の種類別に、小さな単位で啓発できるように工夫していきたい。
味岡	・小牧市は消費者被害件数が多いが「消費者被害防止」「虐待防止」についての興味関心を持っている方、当事者意識を持っている方が少ないため講話依頼が少ない。地域性をみながらこちらからの声かけや、関心を持っていただけるような働きかけが必要である。地域だけではなく自分の問題として、捉えていただくことが重要だと考える。
篠岡	・他にも小規模の勉強会を実施して欲しいとの声が聞かれたので企画調整する。 ・以前はマイナンバー、劇場型詐欺被害防止などチラシ配布による啓発を実施していたが、十分な啓発が行えていない。
北里	・年1回以上は、北里圏域においていずれかのテーマで講演会を実施し、より身近なところでの啓発活動が重要である。 ・成年後見制度についての理解を広げる活動について検討する。

課題に対する今後の方向性

虐待や消費者被害など権利擁護に関する相談は一部包括を除き年々増えている。虐待については、施設における虐待の疑いに関する相談の増加も懸念されてきていることから、地域住民だけでなく、介護サービス事業者に対する啓発活動も必要である。

また、平成30年度には市内に「権利擁護センター」が設置されることから、業務内容について整理を行い、関係機関と連携を図りながら支援を行う必要がある。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるように、一人ひとりの心身の状態に合わせた適切なサービスが提供されるように、介護支援専門員への支援や助言を行う。また、主治医と介護支援専門員、その他の様々な職種、地域の関係機関等との連携を図り、包括的・継続的なケア体制の構築を図る。

目標の達成度合
 A・・90%以上
 B・・70%以上
 C・・50%以上
 D・・50%未満

①包括的・継続的ケアマネジメント実施事業・介護支援専門員に対する支援

	事業計画	取組み及び成果	H28 評価 (案)	H27 評価結果								
全域		【取組み】 ・四者連絡会（市・包括・ケアマネの団体・介護保険サービス事業者連絡会）を2回実施し、現状の各々の情報を共有した。 ・居宅介護支援事業所のケアマネジャーを対象に介護予防プラン研修会を実施した（65名参加）。										
小牧	・四者連絡会において、各団体と調整を行うことで、介護支援専門員を支援していく。 ・個別ケア会議の開催の促進を図るために、介護支援専門員との意見交換の機会を各圏域において年1回ずつを目標に設ける。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護支援専門員からの相談数(件)</td> <td>92</td> <td>139</td> <td>152</td> </tr> </tbody> </table> 【取組み】 ・6月、7月、8月と各圏域（南部、中部、西部）において、「個別ケア会議」の研修会を開催した。 【成果】 ・個別ケア会議の研修会を通して、成功例や地域の課題から活動に広がった事例等をケアマネジャーを中心に紹介することができた。また、参加したケアマネジャーと共に事例を検討し『地域への支援』という意識と必要性を広めることができた。		26年度	27年度	28年度	介護支援専門員からの相談数(件)	92	139	152	B 独自の個別ケア会議の勉強会を通して、具体的な支援方法を一緒に検討することができている。また、ケアマネジャーからの相談件数も増えていることから、関係を築くことができていると考える。	B
	26年度	27年度	28年度									
介護支援専門員からの相談数(件)	92	139	152									
味岡	・圏域における医療機関や事業所等の情報を整理する。 ・地域の居宅介護事業所への訪問や介護支援専門員との事例検討会及び意見交換会を開催し、互いに顔の見える関係づくりを行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護支援専門員からの相談数(件)</td> <td>139</td> <td>121</td> <td>272</td> </tr> </tbody> </table> 【取組み】 ・医療機関や事業所等の情報を整理し、冊子の発行ができるよう会議に参加した。 ・地域の居宅介護事業所の事例検討会(4回)に参加し、ケースの振り返り、意見交換等を行い介護支援専門員の資質向上を行うことができた。 【成果】 ・事例検討会の中で、包括へ相談がしにくい、行きにくい等の生の声を聞くことができるなじみの関係性ができ、相談を受けることも増えている。 ・事例検討会参加の継続により、29年度味岡地区事例検討会の開催に繋がった。		26年度	27年度	28年度	介護支援専門員からの相談数(件)	139	121	272	A 介護支援専門員からの相談件数が増え、事例検討会に参加することで一定の効果があらわれ、相談しやすい環境づくりにつながっている。	B
	26年度	27年度	28年度									
介護支援専門員からの相談数(件)	139	121	272									
篠岡	・ケアマネジャー対象に、包括主催による地域ケア会議や在宅医療・わた史ノート関連の勉強会を実施する。 ・事業所の個別訪問を通じて、個別ケア会議への事例提供の依頼を行い、普及を促進する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護支援専門員からの相談数(件)</td> <td>29</td> <td>98</td> <td>74</td> </tr> </tbody> </table> 【取組み】 ・居宅のケアマネジャー対象に勉強会を実施。 【成果】 ・わた史ノートとエンディングノートとの違いについて理解を得ることができた。 ・事業所を巡回する中で困難ケースの話も聞けて、関係づくりができて個別ケア会議の事例を提供してもらえることがあった。		26年度	27年度	28年度	介護支援専門員からの相談数(件)	29	98	74	C 独自の勉強会など、居宅ケアマネジャーと交流をする場を設け、関係構築につなげることができているが、平成27年度に比べ、介護支援専門員からの相談件数は減少している。	B
	26年度	27年度	28年度									
介護支援専門員からの相談数(件)	29	98	74									
北里	・圏域における医療機関や事業所等の情報を整理する。 ・地域の居宅介護事業所への個別訪問や介護支援専門員との事例検討会及び意見交換会を年1回開催し、互いに顔の見える関係づくりを行う。 ・圏域内高齢者のプランを担当している介護支援専門員に対し、アンケート等を行い、日々の業務に関して抱えている問題等に対し、年1回情報交換等により相互に支え合う場を作る。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護支援専門員からの相談数(件)</td> <td>44</td> <td>146</td> <td>171</td> </tr> </tbody> </table> 【取組み】 ・個別のケースについては、ケアマネジャーからの相談に対して連携を取り、支援をした。 ・相談があったケースなどにも積極的にサービス担当者会議に出席した。 ※28年度は、意見交換会及び事例検討会を実施できず。 【成果】 ・居宅介護支援事業所より個別で相談がくるようになった。		26年度	27年度	28年度	介護支援専門員からの相談数(件)	44	146	171	C サービス担当者会議をきっかけに、居宅介護支援事業所と積極的に連携をし、関係者と良好な関係を築くことができているが、事業計画に位置づけていた取組みを実施することができていない。	B
	26年度	27年度	28年度									
介護支援専門員からの相談数(件)	44	146	171									

各地域包括支援センターの課題のまとめ

課題	
小牧	<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケア会議の開催について、居宅介護支援事業所からは一方的に「該当するケース」を提出させられるといったニュアンスを与えてしまった経緯があり、四者連絡会では、十分な相互の理解を図ることができなかった。 ・要支援の方でも要介護の方でも、支援が困難な場合には気軽に声をかけていただけるような関係作りの構築が必要である。 ・包括に対して、相談しにくい雰囲気や返答の仕方等、配慮や改善等を行って、居宅介護支援事業所にとって、包括が身近な存在となるようにしなければならない。
味岡	<ul style="list-style-type: none"> ・個別のケースを通して医療機関と関わることはあるが、時間を取っていただくことが難しい。在宅医療サポートセンターと連携を図り整理していくことが必要だと感じた。 ・事例検討会を継続的に行い、話しやすいなじみの関係ができてきているが、どの職員にでも相談ができる関係までにはまだ至っていない。
篠岡	<ul style="list-style-type: none"> ・個別地域ケア会議の実施にあたり、事例提供依頼のための巡回訪問は当面見合わせとなったため、促進ができていない。 ・介護保険関係者だけでなく地域の関係者とのつながりの中で開催を調整する必要があると感じた。
北里	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題について共通理解をはかると共に連携を深める事を目的とし、年1回以上は事例検討会・意見交換会の開催が必要だと感じた。 ・お互いに顔の見える関係をつくり、連携して支援するため、個別のケースの支援は、ケアマネジャーからの相談に対しては迅速に対応していく。また、訪問やサービス担当者会議等にも依頼がある時は、出席をしていく。

課題に対する今後の方向性

要介護・要支援者の増加に伴い、困難事例も増加し、居宅介護支援事業所の負担も大きくなっている状況である。包括的なケア体制を構築する上で、ケアマネジャーは重要な役割を担うことから、より一層の支援が必要だと考える。

味岡地域包括支援センターで実施している居宅介護支援事業所との事例検討会は、小規模での開催で、相談しやすい環境でケアマネジャーを支援できており、ケアマネジャーとの良好な関係性が構築できていることから、他の包括でも情報を共有し、より効果的な支援ができるような取組みに期待する。

(4) 介護予防ケアマネジメント事業

高齢者が住み慣れた地域で、家族以外の人と交流を持ちながら、豊かな気持ちで生活できるよう、本人ができることはできる限り本人が行うことを基本としつつ、高齢者の主体的な活動により生活の質の向上を高めることを目指す。

目標の達成度合
A・・・90%以上
B・・・70%以上
C・・・50%以上
D・・・50%未満

①二次予防事業・介護予防に関する啓発

	事業計画	取組み及び成果			H28 評価 (案)	H27 評価結果																			
		26年度	27年度	28年度																					
全域		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者 (人)</td> <td>5,197</td> <td>3,570</td> <td>3,571</td> </tr> <tr> <td>訪問対象者 (人)</td> <td>1,740</td> <td>985</td> <td>846</td> </tr> <tr> <td>教室参加者 (人)</td> <td>129</td> <td>153</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>教室参加者数 前年度比較 (人)</td> <td>+5 (104%)</td> <td>+24 (119%)</td> <td>-11 (93%)</td> </tr> </tbody> </table>		26年度	27年度	28年度	対象者 (人)	5,197	3,570	3,571	訪問対象者 (人)	1,740	985	846	教室参加者 (人)	129	153	142	教室参加者数 前年度比較 (人)	+5 (104%)	+24 (119%)	-11 (93%)			
	26年度	27年度	28年度																						
対象者 (人)	5,197	3,570	3,571																						
訪問対象者 (人)	1,740	985	846																						
教室参加者 (人)	129	153	142																						
教室参加者数 前年度比較 (人)	+5 (104%)	+24 (119%)	-11 (93%)																						
小牧	<ul style="list-style-type: none"> 地区の集まりの機会を捉え、25項目の基本チェックリストを実施し、介護予防の考えを広めていく。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者 (人)</td> <td>2,097</td> <td>1,475</td> <td>1,437</td> </tr> <tr> <td>訪問対象者 (人)</td> <td>732</td> <td>475</td> <td>271</td> </tr> <tr> <td>教室参加者 (人)</td> <td>49</td> <td>65</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>教室参加者数 前年度比較 (人)</td> <td>-7 (88%)</td> <td>+16 (133%)</td> <td>-3 (95%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康展等の地区の集まりに出向き、基本チェックリストを実施した。また、総合相談において、日常的に身体機能が低下傾向の方（運動機能含む）に活用した。 健康展を延べ10回開催（延べ237人参加）。 介護予防教室を延べ19回開催（延べ338人参加）。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護予防に関する啓発活動を通して、健康づくりの意識が高まったと考える。 		26年度	27年度	28年度	対象者 (人)	2,097	1,475	1,437	訪問対象者 (人)	732	475	271	教室参加者 (人)	49	65	62	教室参加者数 前年度比較 (人)	-7 (88%)	+16 (133%)	-3 (95%)	<p>A</p> <p>二次予防事業における教室参加者の人数は平成27年度に比べ減少しているが、多くの方が独自の介護予防の講座に参加しており、また、より身近な地域に出向いた講座を開催することで、効果的な介護予防の啓発が行えていると考える。</p>	A	
	26年度	27年度	28年度																						
対象者 (人)	2,097	1,475	1,437																						
訪問対象者 (人)	732	475	271																						
教室参加者 (人)	49	65	62																						
教室参加者数 前年度比較 (人)	-7 (88%)	+16 (133%)	-3 (95%)																						
味噌	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ定例会、ふれあい・いきいきサロン活動に出向き、介護や認知症の予防に関する講話や説明を行う。 運動、交流の場の拠点作りの構築、拡大に努める。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者 (人)</td> <td>1,198</td> <td>837</td> <td>862</td> </tr> <tr> <td>訪問対象者 (人)</td> <td>389</td> <td>263</td> <td>236</td> </tr> <tr> <td>教室参加者 (人)</td> <td>35</td> <td>28</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>教室参加者数 前年度比較 (人)</td> <td>+13</td> <td>-7 (80%)</td> <td>+6 (121%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 野口の郷において、予防講話を6回実施（参加者計171名）。 サロン等において、健康講話を6回実施（参加者計157名）。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 野口の郷での予防講話については、2か月に1回担当し実施しているため、定期的な講話の機会として位置づけることができている。 サロンにおいては包括がサロン活動へ参加することで、顔の見える関係の構築につながり講話の依頼が増えた。また、利用者・参加者の多くが健康意識の高い方たちであるため、講話を実施することにより、健康についての意識づけがより高まりつつある。 		26年度	27年度	28年度	対象者 (人)	1,198	837	862	訪問対象者 (人)	389	263	236	教室参加者 (人)	35	28	34	教室参加者数 前年度比較 (人)	+13	-7 (80%)	+6 (121%)	<p>B</p> <p>地域に踏込んだ介護予防の啓発が行えている。また、ただ介護予防の啓発活動を行うだけでなく、ネットワークの構築にも繋がっている。</p>	B	
	26年度	27年度	28年度																						
対象者 (人)	1,198	837	862																						
訪問対象者 (人)	389	263	236																						
教室参加者 (人)	35	28	34																						
教室参加者数 前年度比較 (人)	+13	-7 (80%)	+6 (121%)																						
篠岡	<ul style="list-style-type: none"> 老人福祉センター、老人クラブの活動、サロン、区の3あい事業等に参加して、介護や認知症の予防に関する講話を行う。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者 (人)</td> <td>1,063</td> <td>686</td> <td>695</td> </tr> <tr> <td>訪問対象者 (人)</td> <td>339</td> <td>219</td> <td>121</td> </tr> <tr> <td>教室参加者 (人)</td> <td>29</td> <td>25</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>教室参加者数 前年度比較 (人)</td> <td>+8 (138%)</td> <td>-4 (86%)</td> <td>-11 (56%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 老人福祉センター、老人クラブの活動、サロン、区の3あい事業において、予防に関する講話等を実施した（延べ14回、335人が参加）。 コグニサイズなどと組み合わせることにより楽しくなるよう工夫した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 顔の見える相談しやすい関係づくりに一定の効果あった。 		26年度	27年度	28年度	対象者 (人)	1,063	686	695	訪問対象者 (人)	339	219	121	教室参加者 (人)	29	25	14	教室参加者数 前年度比較 (人)	+8 (138%)	-4 (86%)	-11 (56%)	<p>B</p> <p>地域に踏込んで、内容も工夫をしながら活動を行うことができている。</p>	B	
	26年度	27年度	28年度																						
対象者 (人)	1,063	686	695																						
訪問対象者 (人)	339	219	121																						
教室参加者 (人)	29	25	14																						
教室参加者数 前年度比較 (人)	+8 (138%)	-4 (86%)	-11 (56%)																						
北里	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ定例会、ふれあい・いきいきサロン活動に出向き、介護や認知症の予防に関する講話や説明を行う。 運動、交流の場の拠点作りの構築、拡大に努める。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者 (人)</td> <td>839</td> <td>572</td> <td>577</td> </tr> <tr> <td>訪問対象者 (人)</td> <td>280</td> <td>179</td> <td>218</td> </tr> <tr> <td>教室参加者 (人)</td> <td>16</td> <td>28</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>教室参加者数 前年度比較 (人)</td> <td>-9 (64%)</td> <td>+12 (175%)</td> <td>+4 (114%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ、サロンに参加し、介護予防や認知症予防の講話等行った（延べ18回、478人参加）。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 顔の見える関係を築くことができ、講話の依頼などで声をかけてもらえるようになった。 講話を通して、地域住民の介護予防に対する意識が高まったと感じた。 		26年度	27年度	28年度	対象者 (人)	839	572	577	訪問対象者 (人)	280	179	218	教室参加者 (人)	16	28	32	教室参加者数 前年度比較 (人)	-9 (64%)	+12 (175%)	+4 (114%)	<p>B</p> <p>地域に踏込んで密着した活動を行うことができている。</p>	A	
	26年度	27年度	28年度																						
対象者 (人)	839	572	577																						
訪問対象者 (人)	280	179	218																						
教室参加者 (人)	16	28	32																						
教室参加者数 前年度比較 (人)	-9 (64%)	+12 (175%)	+4 (114%)																						

各地域包括支援センターの課題のまとめ

課題	
小牧	・基本チェックリストについて、団体での活用は行ってきたが、更に実施回数を増やしていけたらと考える。
味岡	・サロン活動への参加を通して包括の役割を知って頂くことを継続しなければならない。また、地域の集まりや役員の方たちとのつながりの中で、介護予防の必要性について啓発していく必要がある。 ・介護予防の啓発と共に、自主活動・人材育成へつながるようにサポートする役割を担う必要がある。 ・地域特性を捉え必要な地域へ「集まりの場」が構築できるよう、地域の声を拾い上げていく必要がある。
篠岡	・元気な高齢者の活躍の場への参加について、意欲を高める内容の工夫が必要である。
北里	・圏域内でも関わりの少ない老人会もあるため、29年度も出来るだけ多くの老人クラブ、サロンに参加し、介護予防に関する啓発を行う。 ・ゆうあいで行われる健康講座に、講師として参加し、介護予防や認知症予防の啓発を図る。

課題に対する今後の方向性

各包括において、身近な場所での介護予防の啓発活動に努めている。平成 29 年度より総合事業が始まったことから、介護予防事業については、整理をする必要があると考えるが、効果的な活動については、引き続き実施していく。

また、介護予防教室等を通して健康づくりに興味を持った方が活躍できる場や自主活動につながるような支援についても検討していきたい。

今後は、集う場での働きかけだけではなく、訪問をより意識していくことが必要であり、介護予防においても今まで以上に地域に出向いていく訪問活動に期待したい。

(5) 認知症地域支援推進員の実施事業

新事業

認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続するために、認知症の容態に応じ、全ての期間を通じて必要な医療・介護及び生活支援を行うサービス機関が有機的に連携したネットワークを形成し、認知症の人への効果的な支援体制を構築するとともに、認知症ケアの向上を図るための取組みを推進する。

目標の達成度合
A・・・90%以上
B・・・70%以上
C・・・50%以上
D・・・50%未満

①地域での取組みの促進

事業計画		取組み及び成果			H28 評価 (案)									
小牧	<ul style="list-style-type: none"> 認知症に関する住民主体の取組みが促進されるよう、認知症サポーター養成講座の受講者等が活躍できる場を検討する。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症サポーター養成講座開催回数(回)</td> <td>21</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>認知症サポーター養成講座受講者数(人)</td> <td>684</td> <td>329</td> </tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	認知症サポーター養成講座開催回数(回)	21	10	認知症サポーター養成講座受講者数(人)	684	329	※共催分については、人数を按分。		B 地域に入って活動し、幅広い世代に認知症に関する知識を広めることができている。
			27年度	28年度										
認知症サポーター養成講座開催回数(回)	21	10												
認知症サポーター養成講座受講者数(人)	684	329												
<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座の受講生の方に、ステップアップ講座を開催した。 その方々に、地域の福祉活動に参加いただけるよう登録のお願いをした。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ステップアップ講座を受講した方が、認知症カフェの立ち上げに向けた活動につながった。 														
味噌	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や企業、小中学校等幅広い年齢層へ積極的に働きかけ、認知症サポーター養成講座や認知症予防に関する講座の開催、啓発に努める。 認知症に関する住民主体の取組みが促進されるよう、認知症サポーター養成講座の受講者等が活躍できる場を検討する。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症サポーター養成講座開催回数(回)</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>認知症サポーター養成講座受講者数(人)</td> <td>685</td> <td>846</td> </tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	認知症サポーター養成講座開催回数(回)	9	10	認知症サポーター養成講座受講者数(人)	685	846	※共催分については、人数を按分。		B 地域に入って活動し、幅広い世代に認知症に関する知識を広めることができている。また、独自に認知症予防の取組みを実施し、啓発活動ができている。
			27年度	28年度										
認知症サポーター養成講座開催回数(回)	9	10												
認知症サポーター養成講座受講者数(人)	685	846												
<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民向けや、小中学校向け等に認知症サポーター養成講座を開催した。 認知症予防講座等を11回開催(241名参加)。小・中学校での認知症サポーター養成講座は、年代に合わせ、かつ学校からの要望(災害時、学校が避難所となった際を想定した対応内容を話して欲しい)をもとに講座内容を構成し実施した。 ステップアップ講座を1回(1クール3回)開催(延べ103名参加)。※市内包括合同開催。 ステップアップ講座受講後の意見交換会を1回開催(5名参加)。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前述の大垣共立銀行では認知症サポーター養成講座から相談会に繋げることが出来た。 サロンや老人会などで実施した認知症予防ゲームは、楽しんで頂きながら予防の大切さを学んで頂くことが出来た。 意見交換会を開催し、活躍できる場(認知症カフェ・サロン・介護者の交流会)の創設等に繋げることが出来た。 														
篠岡	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座の参加により、すでに受講した方のステップアップの活動を促す。 大型商業施設で見守りネットワークのPRと協力員募集についての活動を2回実施する。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症サポーター養成講座開催回数(回)</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>認知症サポーター養成講座受講者数(人)</td> <td>997</td> <td>668</td> </tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	認知症サポーター養成講座開催回数(回)	16	16	認知症サポーター養成講座受講者数(人)	997	668	※共催分については、人数を按分。		B 地域に入って活動し、幅広い世代に認知症に関する知識を広めることができている。また、認知症サポーターが今後の活動につながるような取組みができている。
			27年度	28年度										
認知症サポーター養成講座開催回数(回)	16	16												
認知症サポーター養成講座受講者数(人)	997	668												
<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型商業施設で見守りネットワークのPR活動を2回実施し、延べ149名の地域住民にPRすることができた。 市民向けや、小中学校向け等に認知症サポーター養成講座を開催した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーターをステップアップ講座の参加につなげ、圏域内での認知症カフェ立ち上げに向けた具体的な研究会の活動が始まった。 														
北里	<ul style="list-style-type: none"> 認知症に関する住民主体の取組みが促進されるよう、認知症サポーター養成講座の受講者等が活躍できる場を検討する。 地域住民の他、小中学校等幅広い年齢層へ積極的に働きかけ、認知症サポーター養成講座や認知症予防に関する講座を開催し、啓発に努める。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症サポーター養成講座開催回数(回)</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>認知症サポーター養成講座受講者数(人)</td> <td>286</td> <td>381</td> </tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	認知症サポーター養成講座開催回数(回)	7	6	認知症サポーター養成講座受講者数(人)	286	381	※共催分については、人数を按分。		B 地域に入って活動し、幅広い世代に認知症に関する知識を広めることができている。
			27年度	28年度										
認知症サポーター養成講座開催回数(回)	7	6												
認知症サポーター養成講座受講者数(人)	286	381												
<p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民向けの認知症サポーター養成講座を2回開催、約90名の方が受講。 受講者に対し、認知症家族交流会等にボランティアとして参加を案内。 小木小学校6年生、北里小学校4年生、北里中学校2年生に認知症サポーター養成講座を開催(約300名が受講)。 														

各地域包括支援センターの課題のまとめ

課題	
小牧	・実際に、小牧圏域と西部圏域の方で地域の福祉活動につながった方は4名あった。もっと多くの方が福祉活動に参加していただけるように工夫を考えなければならない。
味噌	・認知症サポーター養成講座を開催し、認知症を正しく知って頂くよう啓発を継続していく必要がある。 ・認知症サポーター養成講座の受講者等が活躍できる場として、認知症カフェの創設や介護者の交流会などの自主化を促していく。
篠岡	・実際に活動していく地域の特性に合わせたステップアップ講座の企画が必要である。 ・見守りネットワークについては「登録はしていないが知っている」という声を多く聞くため、協力員の登録がしやすくなるような工夫を考えなければならない。
北里	・認知症サポーター養成講座受講者の活躍できる場の創設が必要。

②情報交換や交流の場の提供

	事業計画	取組み及び成果	H28 評価 (案)
小牧	<ul style="list-style-type: none"> ・家族交流会を行う。また、参加しやすい場となる企画を検討する(年6回)。 ・認知症カフェの実施に向けた検討・調整を行う。 	【取組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・家族交流会を6回開催した。 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェ開催に向けて、認知症サポーターステップアップ講座修了者でカフェの立ち上げに参加いただける方が6名いた。 	B 家族交流会を通して、次の活動に繋がるような支援ができています。
味噌	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者の座談会を行う。また、参加しやすい場となる企画、自主化に向けた取組みを検討する。 	【取組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護者の交流会を4回開催(延べ31名参加)。 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・継続しての参加は得られなかったが、参加者同士での交流が図られ、仲間を作る機会に繋がった。 	B 定期的な交流会を開催し、情報交換ができる場を提供することができています。
篠岡	<ul style="list-style-type: none"> ・家族交流会を定期的に行い、相談しやすい関係を構築する。 	【取組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・家族介護だけでは難しいという気付きを持った区長や民生委員、ボランティアが家族交流会に参加している現状があり、10月以降は毎月の開催とし、さまざまな曜日・時間帯で調整した。 ・プチ勉強会のテーマに応じて専門職に参加を依頼した。 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに合わせて、家族交流会を開催することで、「参加しやすい」といった意見をいただくことができた。 	B 地域のニーズに合わせて、工夫をした支援をすることができています。
北里	<ul style="list-style-type: none"> ・家族交流会を行う。また、参加しやすい場となる企画を検討し、自主化に向けた取組みを検討する。 ・交流会で定期的に外出企画を実施し、認知症の人や家族がともに出かけられる場として、サロンや集いの場の啓発を行う。 	【取組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の認知症家族交流会は、ご家族の情報交換やリフレッシュだけでなく、ご本人も一緒に参加できる機会として開催(延べご家族43名、ご本人25名が参加)。 ・6月に認知症家族交流会の企画で、ご本人とご家族一緒に出掛けられる機会として、昭和村、太田宿への日帰り旅行を実施(21名参加)。 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・家族の方だけでなく、本人にも参加してもらえるように体制を整えたことで、より多くの方に参加していただけた。 	A 家族だけでなく、本人にも参加してもらえるように工夫をしている。また、参加者の声を反映した企画を実施したレスパイトケアが行われている。

各地域包括支援センターの課題のまとめ

課題	
小牧	・認知症カフェの立ち上げにあたり、ボランティアの人数が増えるような工夫が必要である。
味噌	・毎回初参加者ばかりで継続しての参加はなかった。その為自主化に向けた取組みが不十分であり、継続参加して頂けるよう企画、啓発すると共に参加者内のキーパーソンとなる人材の発見、連携が必要(キーパーソンとなる人材についてはステップアップ講座受講者で検討中)。
篠岡	・認知症カフェに家族交流会の機能をどのようにして組み込むか。家族の参加が少ない現状では機能として組み込むことは難しいと感じている。
北里	・ご家族への精神的な支援のため、認知症家族交流会の地域へのさらなる周知を行い、参加につなげていきたい。

課題に対する今後の方向性

認知症ケア体制を強化するため、平成28年度より各包括に認知症地域支援推進員を配置した。
 認知症サポーター養成講座は継続的に開催できているが、その後、受講者が活躍できるような支援や場所を創設する必要がある。
 また、認知症カフェは、認知症の人やその家族が交流できる場となることから、認知症カフェの立ち上げにつながる支援を期待したい。

(6) 各地域包括支援センターの独自の重点取り組み事項

目標の達成度合
A・90%以上
B・70%以上
C・50%以上
D・50%未満

事業計画		取り組み及び成果					H28 評価 (案)
共通事項							
小牧	<ul style="list-style-type: none"> 当センターが受講料の一部を助成して、一般市民に対し、“あいち介護予防リーダー講座”（あいち介護予防センター主催）の受講を促進する（目標受講者数10人）。 あいち介護予防リーダーが主体となって、小地区で定期的に介護予防教室を開催し、地区の人自らが介護予防を推進する拠点づくりに取り組む。 あいち介護予防リーダー同士が情報を交換でき、活動のモチベーションを維持できるように、ボランティアグループ等の組織化を目指す。 	<p>【取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> レクリエーションの学びの講座として、あいち介護予防リーダー講座に10名程が参加。受講料の一部を助成した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座を受講したことによって、リーダーとしての意欲向上ができたと思われる。 	A あいち介護予防リーダー養成講座の受講生が中心となって、介護予防教室を開催することができており、自主活動にも繋がっている。				
味岡	<ul style="list-style-type: none"> 味岡地区の医療・介護・福祉の交流会を開催する（年1回）。 元気な高齢者や軽度認知症高齢者向けに、認知症プログラムの説明会を実施し、プログラム参加や自主活動に向けた活動支援をする。 	<p>【取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 味岡地区事業所交流会を開催し、徘徊防止靴ステッカー、移動販売、移動支援、岩崎県住見守り体制についてグループワークにて意見交換実施した（42名参加）。 地域を小学校区で地区割りし、担当職員を決め担当地区の状況・特徴が明確になるようにしている。 担当地区の職員が圏域に14カ所あるふれあい・いきいきサロンに利用者と同じ立場で参加し、地域の状況把握、相談がしやすい環境の提供等に努めた。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 徘徊防止靴ステッカーと県住見守り体制については、形となるよう具体的な動きにつながっている。 自主活動のきっかけづくりとして認知症予防ゲームや予防講話の依頼が増加した。 	A 味岡圏域の居宅介護支援事業所との交流会を通して、様々な取り組みについて検討がされているとともに、関係機関と信頼関係の構築に努めている。				
篠岡	<ul style="list-style-type: none"> ささえあいのすゝめ勉強会を通じて、ボランティアや住民のネットワークを強化し、地域住民の個別の生活課題の具体的な解決策の模索、活動につなげる。 地域の区長や役員へ働きかけ、ささえあいのミニプレゼンを実施する。 	<p>【取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ささえあいのすゝめ勉強会を3回開催し、初めて住民と専門職が一緒に参加できる勉強会を企画した（延べ107名の参加）。 地域住民や役員対象にささえあいのミニプレゼンを3回実施し、これからは地域で支えていく必要性を啓発した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ささえあいのすゝめ勉強会を通して、普段話をする機会のないボランティアや民生委員と専門職が、顔の見える関係に一つ近づく機会になった。 	A 住民と専門職が顔の見える関係となるため、「ささえあいのすゝめ勉強会」という独自の取り組みを実施するなど、努力、工夫をしている。また、地域住民の気づきの場が増え、住民の自主的な活動につなげることができている。				
北里	<ul style="list-style-type: none"> 認知症予防プログラムを年1回以上実施し、仲間づくりを支援する。また、プログラム参加者や自主活動グループの交流会を開催し、グループ活動の継続を支援する。 地域の人気が気軽に参加できる、集いの場を創出する。 	<p>【取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2～3月にかけて、認知症予防プログラム（ウォーキングプログラム）を5回実施した（小針地区7名が参加）。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在認知症でない方に対し、意識の啓発を行い、認知症の予防につなげることができた。 	A 現在認知症でない方に対し、独自の取り組みとして、認知症予防のプログラムを実施し、認知症の予防を推進することができている。				

各地域包括支援センターの課題のまとめ

課題	
小牧	<ul style="list-style-type: none"> ・活躍できる場を確立していくことが、今後の課題と思われる。 ・「場作り」が提供できるよう、関係機関とのつながりが必要である。
味岡	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売については地域の課題の洗い出しや、業者との兼ね合いで進めることが出来ていない。 ・サロン参加時の移動支援については、サロンの考え方、人手、責任問題等の問題や地域の実状との兼ね合いもあり進めることが出来ていない。 ・事業所交流会でのグループワークについては、こちらが提示した課題検討を行っていただいたため、実施の仕方を再検討していきたい。 ・個別の地域ケア会議などを通して地域のニーズや問題点、地域の特性を把握し地域の活動が住民主体の活動となるよう支援をしていく必要がある。
篠岡	<ul style="list-style-type: none"> ・ささえあいのすゝめ勉強会では、住民・ボランティアの参加者が定着しており、新しい参加者が少ない。 ・民生委員の参加は徐々に増えてきたが、区長の参加が殆どない。
北里	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングプログラムをその後も継続していただけているのか、その後の支援が十分出来ていない。 ・その他の集いの場の創設に繋がっていない。

課題に対する今後の方向性

各包括とも独自の重点取り組み事項として挙げていたものについて、積極的に取り組み成果を得ることができている。それぞれの取り組みに対する課題を解決するような対策を検討し、今まで以上に成果が得られるような事業を期待したい。

各地域包括支援センター総括（案）

	総合相談業務	実態把握、ネットワーク構築	高齢者虐待・消費者被害への対応	包括的・継続的ケアマネジメント実施事業・介護支援専門員に対する支援	二次予防事業・介護予防に関する啓発
小牧	B	B	B	B	A
味岡	A	B	B	A	B
篠岡	B	A	B	C	B
北里	B	B	B	C	B

	認知症地域支援推進員の地域での取り組みの促進	情報交換や交流の場の提供	独自の重点取り組み事項	合計
小牧	B	B	A	A-2, B-6
味岡	B	B	A	A-3, B-5
篠岡	B	B	A	A-2, B-5, C-1
北里	B	A	A	A-2, B-5, C-1

総 評

各包括とも日々の業務に各々の圏域の地域性や独自性を取入れ、適切に業務を遂行できており、それぞれ力を入れている業務については積極的に取り組み、成果を得ることができている。

介護予防プラン件数の増加により、居宅介護支援事業所への委託率も年々高くなっており、介護支援専門員に対する支援が課題となっている。また、認知症の人も、今後さらに増えることが予想されており、住み慣れた地域で暮らし続けるためにも、地域による見守りや支え合いなど地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを強化する必要がある。

要介護者・要支援者の増加に伴う相談件数の増加や、虐待などの困難事例への対応等から、包括の業務は増え続けている。今後も包括が担う役割は、拡大することが予想されることから、事業内容や取り組みの整理を行いながら、身近な存在として寄り添った支援ができるような体制を整える必要がある。